

発行：富山県高岡農林振興センター 高岡市赤祖父 211 高岡総合庁舎 2階 TEL (0766) 26-8474 FAX (0766) 26-8475

ホームページは高岡農林振興センターで検索!!

高岡農林振興センター

検索



射水市で栽培が盛んなストック



氷見市で栽培されるリーキ



えだまめ JGAP 団体認証に向けた支援

目次

- お知らせ パソコン簿記記帳相談会の開催について…… P1
- 平成30年産米に向けた重点技術対策について…………… P2
- 富山米新品種「富富富」の本格栽培がスタート…………… P3
- 平成30年産米の生産目標決定に至る主な経緯…………… P3
- 1億円産地づくり加速化計画について…………… P4
- 水稻育苗ハウスを活用した小粒イチジクのコンテナ栽培が拡大中… P5
- 水稻育苗ハウス等を活用したコンテナ栽培ブドウが好調… P5
- イノシシ被害防止対策について…………… P6
- がんばる女性農業者 茅原恭子さん(高岡市)…………… P7
- 【シリーズ】新規就農者のご紹介～第14回～
高木 謙太郎さん(射水市)…………… P7
- 和田俊信さんが農事功績者表彰を受賞…………… P8
- 農業関係表彰管内受賞者のご紹介…………… P8

お知らせ

パソコン簿記記帳相談会の開催について

当センターでは、管内の認定農業者や集落営農組織の経営管理の高度化を目指し、決算時期に合わせ下記のとおりパソコン簿記(ソリマチ農業簿記)による記帳相談会を開催しています。

相談会はパソコン簿記の操作から決算書の作成、印刷まで気軽に相談できるよう、時間を区切りながら個別に行いますので、多数のご参加をお待ちしております。

なお、出席を希望される方は、日時の調整が必要ですので、**事前に**下記事務担当までご連絡を下さいますようお願いいたします。

- | | | | | |
|---|------|--|---|-------------|
| 1 | 日 時 | ①平成30年1月30日(火)
② // 2月13日(火)
③ // 2月20日(火)
④ // 2月27日(火)
⑤ // 2月28日(水) | } | 13:30～16:30 |
| 2 | 場 所 | 高岡農林振興センター(高岡市赤祖父211)
※高岡総合庁舎2階「農林振興センター(農業普及)」までお越し下さい。 | | |
| 3 | 講 師 | 株式会社トヤマデータセンター及び当センター職員 | | |
| 4 | 事務担当 | 担い手支援課 経営支援班 TEL:0766-26-8474(直) | | |

平成30年産米に向けた重点技術対策について (コシヒカリを中心として)

富山県の平成29年産米の作柄（12月5日現在）は、作況指数100、単収は546kg（前年差△20kg）で、うるち玄米1等比率（10月31日現在）は91.1%となり、3年連続で目標とする90%以上を達成しました。

一方では、初期生育が遅れ、強勢な分けつが確保できなかったこと等から、8月の日照不足傾向等も影響し、乳白粒や青未熟粒により収量や品質が低下した地域も見られました。また一部ではカメムシによる斑点米被害も散見されました。これらを踏まえ、平成30年産も引き続き“高品質な米づくり”の実践に向け、初期生育を早期に確保し、適正な着粒数へ誘導できるよう、以下の対策に取り組みましょう。

1 5月15日を中心とした田植えの実施

コシヒカリの品質を安定して高めるためには、高温登熟を回避することが必要なため、5月15日中心の田植えを実施しましょう。

そのため、育苗日数は20日間以内を目安として4月25日を中心に播種を行い、ハウスに搬出してからは換気を徹底し、健苗育成（草丈：12～13cm、第一葉鞘長：3.0～3.5cm、苗令：2.5L程度）に努めることが重要です（表1）。また、植付本数は3～4本/株とし、植付深さが3cm程度となるように田植機の調整を行いましょう（図1）。

表1 育苗計画の目安（コシヒカリ）

浸種日	播種日	田植日	出穂日
4月8日頃	4月18日頃	5月10日	8月1日頃
4月16日頃	4月25日頃	5月15日	8月4日頃
4月24日頃	5月2日頃	5月20日	8月7日頃

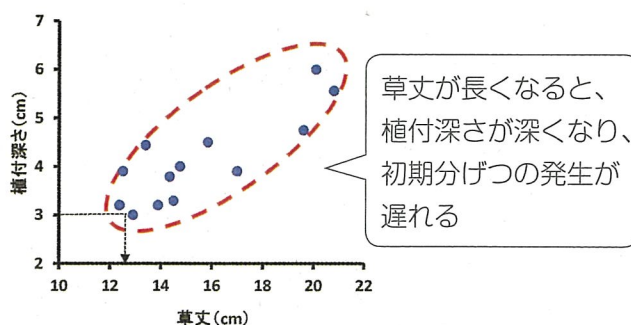


図1 苗丈と植付深さの関係（H29 高岡農林振興センター）

2 カメムシ被害の発生防止

平成29年産の水稲うるち玄米のうち、カメムシ類による格下げが23.1%あり、昨年（17.5%）より高くなりました。6月下旬の雑草地ではカスミカメムシ類が、早生本田ではアカスジカスミカメの確認地点率が高く、中山間地ではクモヘリカメムシ（写真）の発生が多い傾向が見られました。カメムシ類の発生・増殖を抑え、平成30年産の斑点米被害を防止するために、次の対策を行いましょう。

(1) カメムシ類が発生・増殖しにくい環境づくり

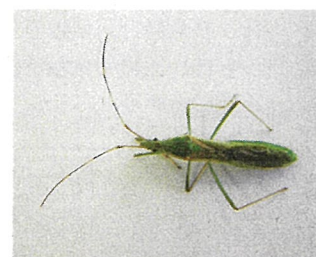
- ・畦畔等の雑草地は、イネ科雑草の穂が出るまでに草刈り等を徹底しましょう。
- ・麦跡等の不作付地は、大豆、緑肥、園芸作物等を栽培しましょう。
- ・本田内にカメムシの餌となる雑草（ノビエ・ホタルイ等）が残らないように除草を徹底しましょう。

(2) 適期・適正な防除の徹底

- ・基本防除の時期を遵守し、被害が予想される場合は追加防除を行いましょう。
- ・基本防除には、カスミカメムシ類に残効性の高い薬剤を使用しましょう。
- ・粒剤で防除している場合は、微粒剤や粉剤、液剤で散布するように努めましょう。

(3) 割籾の発生軽減

- ・珪酸質資材を施用して割籾の発生を軽減し、カメムシ被害を減らしましょう。



クモヘリカメムシ

富山米新品種「富富富」の本格栽培がスタート

1 「富富富」の生産者募集と登録申請について

県が開発してきた、①高温に強く、②草丈が短く、③いもち病に強い特性を備えた富山米新品種「富富富」の本格栽培がいよいよ今年から始まります。

富山米新品種戦略推進会議では、昨年10月末から12月12日までの間、平成30年産米の生産者募集を行いました。管内では4か所の会場で募集説明会を開催し、360名余の農業者の方々が「富富富」開発の経緯や特徴、栽培要件、栽培基準等の説明を受け、活発な質疑も行われました。



高岡総合庁舎会場の様子（平成29年11月7日）

栽培の申し込み（生産登録申請）は、約100経営体から提出され、記載事項の確認と1月31日に開催が予定されている富山米新品種戦略推進会議での審議を経て生産者が決定されます。

2月22日には、生産者の方々を対象とした栽培研修会が予定されています。

2 「富富富」の試食・販売会が開催！

昨年秋に管内各地で開催された農業祭等で、平成29年産米を用いた試食会や限定販売が行われ、来場者の長蛇の列に県民の皆さんからの関心の高さがうかがえました。

試食会では甘みや旨みに優れているとの評価も寄せられており、良食味で高品質な「富富富」が本県を代表するブランドに育つよう取り組んでまいります。



「富富富」試食会の様子（平成29年11月）

平成30年産米の生産目標決定に至る主な経過

平成25年 12月	<p>農林水産業・地域の活力創造本部（国）</p> <p>『5年後を目途に行政による生産数量目標の配分に頼らずとも、国が策定する需給見通し等をふまえて、生産者が集荷業者・団体が中心となって、円滑に需要に応じた米生産が行える状況になるよう、行政・生産者団体・現場が一体になって取り組むこと』が決定。</p>
平成28年 12月	<p>富山県農業再生協議会</p> <p>平成30年産以降も、地域全体で「県産米の需要拡大と需要に応じた生産及び水田のフル活用」を推進する方針を決定。</p>
平成29年 11月30日	<p>食料・農業・農村政策審議会 食糧部会</p> <p>『米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の変更』について協議・決定。</p> <p>【決定内容】</p> <p>平成30年産主食用米等の生産量は、平成31年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準(180万ト)となるものとして、735万トに設定 <～需要見通し(推計値)は742万ト～></p> <p>※ 主食用米等: 主食用に供給されるもののほか、加工用途及び輸出用に供給されているものの一部が含まれます。</p> <p>※ 735万ト: 平成29年度の生産数量目標と同数。</p>
平成29年 12月6日	<p>富山県農業再生協議会</p> <p>国が示した平成30／31年の需給見通しを踏まえて、県全体の生産目標（181,695ト）を決定し、地域農業再生協議会ごとに生産目標を提示。</p>

（農業普及課）

1 億円産地づくり加速化計画について

平成 22 年度から、農協ごとに戦略品目を選定し、地域の農業者、営農組織が一体となって 1 億円規模の園芸産地づくりに取り組んできました。今年度、産地づくりの加速化を図るため新たな JA の基本方針と取組計画が策定されたので紹介します。

各 JA の計画

(1) JAいみず野

えだまめについては、機械化による省力化、排水対策・鳥害対策の徹底による単収向上により、生産拡大を図ります。また、JGAP の団体認証取得を目指します。いちごについては、CO₂ 施肥や品種の検討により、単収の向上とコストの削減を図ります。

(2) JA高岡

軟弱野菜については、主穀作経営体の育苗ハウスの有効利用や市単独補助事業の活用によるハウス導入により面積拡大を進めます。

にんじんについては、省力機械と全農野菜センターの活用により、主穀作経営体の大規模栽培による面積拡大を推進します。

また、両品目ともに新規生産者の早期技術習得を目指し、既存生産者による実践研修を実施しています。

(3) JA氷見市

白ねぎについては、氷見市産ねぎ出荷組合の単収向上と安定生産に向けた取組みを実施するとともに、担い手へのほ場集積により、生産の強化を目指します。

また、水田地帯では省力栽培の可能なリーキ（西洋ねぎ）等の新品目の栽培技術確立や商品開発を行い、ねぎ類の生産拡大を図ります。

(4) JAいなば

特産ハトムギをさらに普及拡大し、年々高まる国産品需要に対応します。今後乾燥調製施設の整備を検討していく計画です。

また、ハトムギの他にも広域産地形成品目である加工用キャベツの生産拡大も進行しています。



えだまめ収穫機実演会（JAいみず野）



新商品リーキのパッケージ（JA氷見市）

表 1 億円産地づくり加速化計画の数値目標

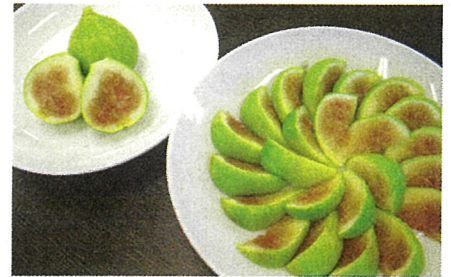
農協名	戦略品目	H28 年実績			目 標				
		作付面積 (ha)	出荷量 (t)	販売金額 (千円)	目標 達成年	作付面積 (ha)	出荷量 (t)	販売金額 (千円)	
JAいみず野	えだまめ	17.6	58.0	39,593	H33	30.0	150.0	100,000	
	いちご	0.5	11.8	18,980	H33	0.5	11.8	18,980	
JA高岡	軟弱野菜	22.4	224.0	95,720	H33	33.7	337.5	135,000	
	にんじん	9.0	90.0	12,240	H33	25.0	750.0	79,500	
JA氷見市	ねぎ	白ねぎ	10.0	202.0	76,028	H40	16.5	330.0	115,500
		リーキ	0	0	0	H40	5.6	112.0	50,400
		その他	0	0	0	H40	3.9	78.0	54,600
JAいなば	ハトムギ	218.4	485.8	121,450	H29	267.7	615.7	172,396	

(担い手支援課 園芸振興班)

水稲育苗ハウスを活用した小粒イチジクのコンテナ栽培が拡大中

1 水稲育苗後のハウス遊休期間を有効活用

近年、外食産業等から小さくて甘いイチジク品種が調理食材として注目され、県産小粒イチジクの生産・流通への要望が高まっています。本県では有望品種として「コナドリア」を選定して生産拡大を進めており、管内では現在 10 経営体が合計 17 アールのハウスで栽培に取り組んでいます。移動可能なコンテナを利用して 5～11 月にハウス内で栽培するため、ハウスの遊休期間を有効活用する品目として栽培拡大が進んでいます。



本県推奨品種「コナドリア」

2 管内の栽培事例

(農) 大島北部営農 (射水市)

1.5 アールのハウス 1 棟で平成 27 年春から「コナドリア」40 コンテナを栽培しています。今年は約 4,000 果を 8 月 6 日～9 月 19 日にかけて収穫、販売しました。収穫期が稲刈り期間と重なりましたが、朝に収穫・調整することにより稲刈りとの作業競合を回避することができました。



(農) 大島北部営農の栽培事例

(農) 蓑島営農組合 (高岡市)

1.9 アールのハウス 1 棟で平成 27 年秋から「コナドリア」30 コンテナと果皮の黒い小粒イチジク 4 品種、計 9 コンテナを栽培しています。今年から本格的な収穫・販売を行い、甘みが強く、皮ごと食べられる手軽さもあって、消費者から高い評価を得ました。

両経営体とも、①栽培管理が容易であること、②多くの需要があること、③イチジクは挿し木で容易に繁殖でき、せん定した枝を利用して自前での苗木生産が可能なことから、今後、小粒イチジク栽培ハウスを増やす予定です。

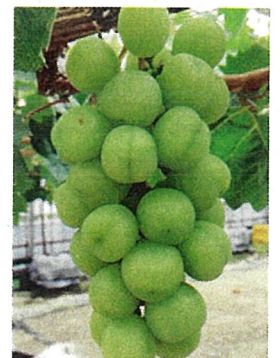
水稲育苗ハウス等を活用したコンテナ栽培ブドウが好調

1 水稲育苗ハウスの遊休期間を有効活用

主穀作経営の複合化などを目的に水稲育苗ハウス等を利用し、コンテナに植栽した果樹類の栽培が管内でも進んでいます。中でもブドウは消費者からの人気が高く販売が好調です。

2 管内の栽培事例とコンテナ栽培のメリット

- (1) 小矢部市の(有)遠藤園芸では平成25年秋に大粒系高級品種の「藤稔」、「巨峰」、「シャインマスカット」等7品種を定植し、平成27年から販売を開始しました。
- (2) ブドウの収穫期は早生～中生品種を組み合わせると、7月下旬頃～8月下旬頃で稲刈りとの作業競合はほとんどありません。旧盆時期の贈答用として需要が期待できます。
- (3) ブドウは果穂の整形、ジベレリン処理、摘粒、摘房作業が必要で、栽培にはある程度の技術が必要ですが、露地栽培と比較して農薬使用回数が少ない、定植2年目から収穫可能等のメリットがあります。
- (4) ブドウを定植したコンテナは水稲育苗期間中もハウス内に設置したままですが、展葉期が5月頃と比較的遅く、水稲育苗にはほとんど影響しません。コンテナ栽培により、かん水や施肥のコントロールがしやすく、露地では栽培が難しい品種でも栽培は比較的容易です。
- (5) 皮ごと食べられ消費者からの人気が高い「シャインマスカット」もかん水量が調節できるコンテナ栽培では、糖度が高い果実が容易に栽培できます。



人気の高い
「シャインマスカット」

3 留意点

- (1) こまめなかん水が必要であり、自動かん水装置の設置が必須です。
- (2) 開花から収穫までの期間が短く適期に作業を行う必要があります。

イノシシ被害防止対策について

～地域ぐるみで棲み分け・被害防除・捕獲の取組みを～

1 平成 29 年度のイノシシによる農作物被害対策の取組みについて

近年、管内のイノシシによる農作物被害額は減少傾向にあるものの、①イノシシによる農作物被害の発生地域が従来、被害がなかった地域で発生していること。②被害防止対策は、農業者を含む地域住民一体となって地域ぐるみで取り組む必要があること。③イノシシによる農作物被害が近年、市を越えて広域化しており、広域的かつ一貫性を持ったイノシシ被害対策の取組が求められていることから、国の専門家を講師として6月下旬に4市で市全域の農業者を含む地域住民を対象としたイノシシ被害防止対策研修会が開催され、イノシシの生態及び被害防止対策の正しい知識の醸成を図りました。

また、管内では、イノシシによる農作物被害防止対策として、集落環境管理、被害防除、捕獲に取り組んでおり、各対策の取組状況については以下のとおりです。

- ・集落環境管理については、氷見市において地域ぐるみで竹林や放任果樹の伐採などが行われ、イノシシを集落に引き寄せない環境づくりが実施されています（下図）。
- ・被害防除については、電気柵の新規設置距離が72km（10月末）、延べ1,005kmとなっており、管内では積極的に電気柵設置による被害防除の取組が実施されています（下表）。
- ・有害捕獲頭数は、1,881頭（10月末）で昨年同時期に比べて264頭増加し、特に氷見市と小矢部市では100頭以上増加しており、捕獲が進んでいます（下表）。



図 集落環境管理（放任果樹の伐採）の取組事例（氷見市坪池地区）

表 平成29年度における電気柵設置距離及び有害捕獲頭数の状況

市名	電気柵設置距離（km）		有害捕獲数（頭）	
	H29 (10月末)	延べ (H19～H29)	H29 (10月末)	増減数 (前年10月末)
高岡市	23	136	191	▲ 8
氷見市	12	595	1,170	103
小矢部市	23	212	417	114
射水市	13	62	103	55
管内計	72	1,005	1,881	264

2 平成 30 年度のイノシシの被害防止対策について

これまでの取組成果をふまえ、継続して以下の対策を総合的に進めることが重要です。

①集落環境管理対策～地域ぐるみで人と獣の棲み分けを進める～

- ・イノシシを田畑に近づかせないため、農地周辺のヤブ等の刈り払いを行う。
- ・ほ場や集落が餌場とならないよう収穫しない野菜や果樹等を放置しない。
- ・水稻ほ場では2番穂(ひこばえ)が食べられないよう、秋耕または積雪前まで電気柵設置を行う。

②被害防除対策～侵入させない～

- ・効率的、効果的な電気柵等の設置に向けて、地域で電気柵等の設置距離および場所について話し合い、地域ぐるみで電気柵等の設置作業や管理作業等に取り組む。
- ・電線を地表から20cmと40cmの高さに設置し、24時間通電を行う。
- ・適切な電圧を維持するため、草刈り、電気柵の点検等のメンテナンスを徹底する。

③捕獲対策～加害個体を捕る～

- ・上記の①、②を行いながら、加害イノシシの動線をコントロールして効率的な捕獲を実施する。
- ・餌やり等こまめな管理を行うとともに、できるだけ親子一緒に捕獲する。

がんばる女性農業者

～ 高岡市 「k's (ケース) ファーム」 茅原恭子さん ～



ほうれん草の収穫

高岡市・茅原恭子さんは夫の亨さんと「k'sファーム」を経営、ほうれん草を中心にした軟弱野菜と西洋野菜を約50a栽培している認定農業者です。

妻の恭子さんは平成16年の就農後、平成19年に家族経営協定を締結し、お互いが良きパートナーとして日々農業に励み、収穫した野菜は、主に仲卸や飲食店に直接販売しています。

恭子さんの主な役割は、ほうれん草の収穫・調整作業と朝収穫した新鮮なラディッキオ・ロッソなどの西洋野菜を飲食店に配達することです。

お店の要望を聞きながら品目を増やし、アーティチョーク、カーボロネロなど今では約30種を栽培しています。消費者に野菜本来の姿や香り、美味しさを伝えるため、平成25年には、野菜

ソムリエの資格も取得されました。

今年度は、経営の柱であるほうれん草の夏場の高温による生育不良対策として遮光ネットを導入し、その降温効果について調査・研究して、栽培技術の向上に積極的に取り組んでいます。

また、管内の若い女性農業者組織である「れんげの会」の役員やJA高岡の若妻会の「フレッシュミセス」の会長を務めるなど、若い女性農業者のリーダーとして活躍されています。



ラディッキオ・ロッソの収穫



リーフレタス収穫

シリーズ

新規就農者のご紹介

～第14回～

高木謙太郎さん (射水市)

射水市の高木謙太郎さん(30歳)は、就農前はJAに勤務されていましたが、親の農業の手伝いや仕事を通じて自ら農業経営を行いたいという気持ちから独立自営就農

への意識が高まり、就農を決意されました。

そこで平成28年4月から1年間、とやま農業未来カレッジの2期生として研修を実施し、平成29年4月から射水市・庄川河川敷の良好な排水性と深い作土を活かした作物として長芋やゴボウ、レタス、短葉性ねぎ(ねぎたん)などの栽培に取り組まれています。

現在では、JAいみず野の青年部長も務められ、さっそく青年部とJAの若手職員との意見交換会を12月に企画するなど地域農業発展のために尽力されており、今後の一層の活躍が期待されます。

(担い手支援課 経営支援班)



JA職員との意見交換

(担い手支援課 経営支援班)

和田俊信さんが農事功績者表彰を受賞

平成29年11月15日(水)に行われた平成29年度農事功績者表彰式において、小矢部市の和田俊信さんが「緑白綬有功章」を受賞されました。

農事功績者表彰は、公益社団法人大日本農会(総裁 秋篠宮文仁親王殿下)が農事改良の奨励または実行上功績顕著な者、農業上の有益な発見または研究を行い功績顕著な者等に対して、総裁の御名をもって表彰を行い、賞章及び賞状を授与するものです。

和田さんは、JAいなばハトムギ生産組合の初代組合長として4期8年勤め、栽培技術の確立や日本一のハトムギ産地づくりに貢献されたこと、市農業委員として農地集積、耕作放棄地の解消等地域農業の発展に貢献されたことなどが高く評価され、今回の受賞となりました。



(左:和田俊信さん、右:野村光蔵所長)

農業関係表彰管内受賞者のご紹介

- 平成29年度富山県産業経済部門功労表彰
(農林漁業分野) (平成29年11月4日)
有限会社ファーム中田 (氷見市)



(有)ファーム中田
中田 専秀さん



アグリピア パン工房 (前列左から1・2人目)
灘浦かんきつ研究会 (後列左から4・5人目)

- 平成29年度富山県農林漁業功労者表彰
(農業部門) (平成29年11月4日)
アグリピア パン工房 (高岡市)
灘浦かんきつ研究会 (氷見市)

- 第66回富山県農村文化賞
(平成29年12月6日)
農事組合法人 金屋本江アイリスファーム
(小矢部市)
氷見市マコモタケ組合(氷見市)



(農) 金屋本江アイリスファーム



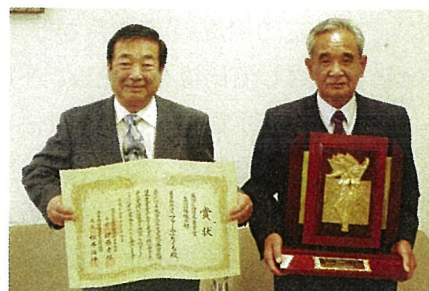
氷見市マコモタケ組合

- 第45回毎日農業記録賞 (一般部門)
(平成29年12月4日)
最優秀賞・新規就農大賞
青沼 光 (高岡市)

- 第47回日本農業賞 (集団組織の部)
富山県代表表彰 (平成29年12月14日)
農事組合法人ファームふたくち (射水市)



青沼 光さん



(農) ファームふたくち

受賞された皆様
おめでとうございます。